

科目	外国語 I	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
目 標	<p>グローバル化する日本社会において、基本的な外国人への対応としての医療英語の基礎を学ぶ。 文型を理解し発音、聞き取り、話すを繰り返し練習する。 より実践的に習得するために、会話やロールプレイも重視しながら進めていく。</p>							
内 容								
1	前期概要	11	病気・病名					
2	英語能力把握	12	薬の服用・種類					
3	英語能力把握	13	診療・検査の予約等					
4	道を聞かれたとき	14	手術					
5	自己紹介	15	術後の経過等①					
6	住所・誕生日等	16	術後の経過等②					
7	診療科名	17	総まとめ					
8	病院内案内	18	筆記試験					
9	症状・兆候							
10	症状・体の部位							
評 価								
<p>出席率が規定率を満たしていること。知識・技能の評価試験を定期的に複数回行うなかで合計評価60点以上を合格とし、単位を認める。評価点数に満たないものは再試験・追加試験を行うことがある。</p>								
教 材								
<p>知念クリスティーン・上村真紀恵、クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) 教員が用意したプリント</p>								
			担当講師	坂本雅彦				

科目	物理学	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	時間数 (単位)	36(2)
目標	物理学の中でも視能に関係する光学を中心に学習し、理解する。 また、光学を理解する為に必要な基礎的な力学・電磁気学に関して学習し、生物学・光学へのより深い理解をする。							
内 容								
1	この授業の進め方	11	プリズムとレンズ2					
2	重力加速度・力のつりあい	12	レンズまとめ					
3	作用反作用の法則	13	波の基本					
4	その他の力	14	光の干渉					
5	電子とは	15	光の回折					
6	オームの法則	16	総復習					
7	光学基礎	17	試験範囲発表及び質疑応答					
8	反射と屈折1	18	単位認定試験					
9	反射と屈折2							
10	プリズムとレンズ1							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。								
教 材								
『看護に必要な やりなおし物理数学』 時政孝行 照林社								
			担当講師	會田夏希				

科目	生物学	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	時間数 (単位)	36(2)
目標	<p>人体を理解するため、中学・高等学校の「生物基礎・生物（旧課程：生物Ⅰ・生物Ⅱ）」の内容の特に人体に関係する項目に絞り、細胞の仕組みから、遺伝、反応、恒常性についての基礎的な理解を深める。</p>							
内 容								
1	この授業の進め方	11	生体防御 2					
2	基本用語	12	呼吸器系 1					
3	細胞の仕組み	13	呼吸器系 2					
4	細胞の働き	14	心臓 1					
5	刺激と反応の仕組み	15	心臓 2					
6	遺伝	16	総復習					
7	特殊感覚	17	試験範囲発表及び質疑応答					
8	生物の恒常性 1	18	単位認定試験					
9	生物の恒常性 2							
10	生体防御 1							
評 価								
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。</p>								
教 材								
『看護に必要な やりなおし生物化学』 時政孝行 照林社								
			担当講師	會田夏希				

科目	情報・統計学	必修	履修学年	1	授業の方法	実習	時間数 (単位)	72 (4)
目標	前期では統計学の基礎を学び、データやグラフの正しい読み取り方、解釈の仕方を学ぶ。後期ではコンピューターを用いてワード・エクセル・パワーポイントなど、社会に出て必要なPCスキルを学ぶ。							
内 容								
1	この授業の進め方	19	コンピューター概論					
2	情報・統計学とは	20	基本的な文書の作成					
3	母集団・標本	21	ビジネス文書の作成①					
4	度数分布表	22	ビジネス文書の作成②					
5	代表値	23	表の作成					
6	分散と標準偏差①	24	図形とイラストの挿入					
7	分散と標準偏差②	25	プレゼンテーションの作成					
8	確率・命題①	26	プレゼンテーションの作成のデザイン					
9	確率・命題②	27	パワーポイント演習①					
10	確率分布・正規分布①	28	パワーポイント演習②					
11	確率分布・正規分布②	29	パワーポイント演習③					
12	2×2のクロス集計表と検定①	30	集計表の作成					
13	2×2のクロス集計表と検定②	31	関数を使った表計算					
14	演習①	32	関数を使った表作成					
15	演習解説	33	演習①					
16	演習②	34	演習②					
17	試験範囲発表及び質疑応答	35	後期レポート提出					
18	前期単位認定試験	36	レポート結果総評					
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。								
教 材								
医療従事者のための情報リテラシー第2版								
			担当講師	會田夏希				

科目	倫理学	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
目 標	<p>生命倫理学の基本的な知識を習得し、グループディスカッションや映像資料を通じて問題について深く考える力と自己の意見を発信できる力を身につける。 身近な健康から生殖医療、臓器移植、死について学ぶことで命の尊さと視能訓練士として医療に携わる際、自身が行う医療行為にどんな意味があるのか、どのように行動していくことがよいか、多角的に考え、自分なりの意見考えを持つことができる。</p> <p>授業の方法：座学 到達目標：授業内容の理解</p>							
内 容								
1	この授業の進め方	11	人の死とは					
2	健康について	12	いのちを守るための原則と生命倫理の課題					
3	「いのち」とは	13	脳死と臓器移植					
4	ヒトも生きものの一員である①	14	安楽死と尊厳死					
5	ヒトも生きものの一員である②	15	映像資料から考える倫理②					
6	映像資料から考える倫理観①	16	職業倫理					
7	遺伝子について知る①	17	総まとめ					
8	遺伝子について知る②	18	課題返却					
9	生殖補助医療①							
10	生殖補助医療②							
評 価								
出席率、ディスカッションや授業態度、映像資料を観て簡易レポート作成等で総合的に評価する。								
教 材								
各单元ごとにプリントを配布								
			担当講師	中田祥子				

科目	教育学	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	時間数 (単位)	36(2)
目標	<p>教育とはどのようなものか、教育と看護の共通点を見つけ、自分なりの考えを持つことができる。また、自分自身の成長過程を振り返ることで自身が教育とどのように関わってきたのか、学校を取り巻く社会とはどのようなものなのかということに関する基礎的な内容について理解する。</p> <p>授業の方法：座学 到達目標：授業内容の理解</p>							
内 容								
1	この授業の進め方	11	学びの場／教育の目標と評価					
2	社会の中の看護と教育	12	キャリア教育					
3	教育とはなにか	13	ジェンダーとセクシャリティ					
4	教育の対象-子ども観と発達	14	特別ニーズ教育とインクルーシブ教育					
5	教育の対象-子どもの権利	15	生涯学習／シティズンシップ教育					
6	教育時事	16	総復習					
7	社会変動と教育	17	試験範囲発表及び質疑応答					
8	教授	18	単位認定試験					
9	訓育							
10	養護・発達							
評 価								
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。 再試験・追試験を行うことがある。</p>								
教 材								
教科書『系統看護学講座 基礎分野 教育学』医学書院								
			担当講師	中田祥子				

科目	心理学	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	時間数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目標	<p>総合病院での視能訓練士としての知識と教育現場で培ったティーチングスキルを元に、医療従事者（視能訓練士）として患者の気持ちを理解することの重要性を伝えたい。 人間の心を自他共に理解するための基礎を学ぶ。 前半は個人と集団の心理を理解するための基礎的な内容を、後半では臨床心理学や健康心理学、行動分析学から、臨床場面で実践的に活用できる心理学の方法や考えかたを学ぶ。授業のまとめとして、「わたしの発達」というテーマで個々の発表の場を設ける。</p>							
内 容								
1	心理学の歴史を学ぶ	11	ピアジェとエリクソンの発達段階理論を学ぶ					
2	現代心理学を学ぶ	12	人の発達順序					
3	知的心理学、五感と五官	13	視能訓練士国家試験過去問題演習					
4	ロールプレイ①	14	発達障害の特徴と支援を考える					
5	ロールプレイ②	15	課題個人発表①「テーマ:わたしの発達」					
6	ロールプレイ③	16	課題個人発表②「テーマ:わたしの発達」					
7	ロールプレイ④	17	課題個人発表③「テーマ:わたしの発達」					
8	学習とは何か、仕組みを条件	18	単位認定試験					
9	記憶と忘却を考える							
10	障害受容過程を学ぶ							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
看護学生のための心理学2版(医学書院)、配布資料								
			担当講師	松浦理恵				

科目	解剖生理学 I		必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
目 標	<p>人体（個体）を構成する基本構成要素の細胞の形態と機能について学修する また、医学領域の入門として体内の血液循環路、栄養素の消化機能や腎臓での尿生成機能などの基礎医学を学ぶ。 各単元を復習し、中間試験・期末試験で理解度を確認する。</p>								
内 容									
1	細胞の基本構造と機能 細胞内小器官の種類と機能、核と遺伝子	11	消化器系 3 小腸・大腸の消化メカニズム						
2	体液の組成と酸塩基平衡 細胞外液・細胞内液、アシドーシス・アルカローシス	12	泌尿器系 1 腎臓の肉眼構造と機能、 血管支配						
3	細胞膜の構造と機能、 膜タンパクの構造と機能	13	泌尿器系 2 腎臓の組織構造と機能、 尿生成の機能						
4	循環器系 1 血液の組成、血球の機能、 血漿タンパクの機能	14	生殖器系 1 男性生殖器の構造と機能						
5	循環器系 2 血液凝固メカニズム、 免疫獲得のメカニズム	15	生殖器系 2 女性生殖器の構造と機能						
6	呼吸器系 1 気管・気管支・肺の構造と機能	16	まとめ						
7	呼吸器系 2 ガス交換のメカニズムと肺機能	17	前期定期試験						
8	中間試験と解説	18	試験解説と総括						
9	消化器系 1 栄養素、消化・吸収のメカニズム								
10	消化器系 2 胃・肝臓・膵臓の構造と機能								
評 価									
<p>出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。 再試験・追再試を認めることがある。</p>									
教 材									
解剖生理学（医学書院）									
						担当講師	桑原俊男		

科目	解剖生理学Ⅱ		必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位)	36(2)
目 標	<p>内分泌機能について学修し、生体の恒常性の仕組みを理解する。 基礎的な神経のメカニズムを学修し視覚器系との関連性を総合的に学ぶ。 各単元を復習し、中間試験・期末試験で理解度を確認する。</p>								
内 容									
1	内分泌系 1 ホルモンの性状と化学構造、 ホルモン分泌メカニズム	11	神経系 8 (末梢系)自律神経能構成と機能						
2	内分泌系 2 下垂体前葉・後葉ホルモン	12	感覚器系 1 耳の構造と機能、 聴覚の伝導路						
3	内分泌系 3 甲状腺・副腎の構造と機能、 ホルモンの生理作用	13	感覚器系 2 眼球の構造と機能、 視覚の伝導路(1)						
4	神経系 1 神経組織の構成と区分、 ニューロンとグリア細胞	14	感覚器系 3 眼球の構造と機能、 視覚の伝導路 (2)						
5	神経系 2 神経伝達のメカニズム、 神経伝達物質と受容体	15	感覚器系 4 鼻の構造と機能、 嗅覚の伝導路						
6	神経系 3 大脳の機能局在、 小脳の構造と機能	16	まとめ						
7	神経系 4 間脳・脳幹の構造と機能	17	定期試験						
8	神経系 5 伝導路 (錐体路・脊髄視床路)	18	試験解説と総括						
9	神経系 6 (末梢系)脳神経の構成と機能								
10	神経系 7 (末梢系)脊髄神経の構成と機能								
評 価									
<p>出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。 再試験・追再試を認めることがある。</p>									
教 材									
解剖生理学 (医学書院)									
						担当講師	桑原俊男		

科目	基礎医学大要 I	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	<p>眼の構造、解剖、視覚器の機能の基礎を学ぶ。病態、検査、治療といった疾患各論の理解は、からだの構造と機能の理解が大きく関わる。 基礎と臨床を結びつけやすいように解剖・生理をテーマ別にまとめ授業を展開する。</p>							
内 容								
1	眼球の主要構造、視覚器の全体像を知る	11	ぶどう膜の働きを学ぶ②					
2	眼瞼の機能と働きを学ぶ	12	網膜十層の構造と働きを学ぶ					
3	結膜、涙器の機能と働きを学ぶ	13	復習問題演習					
4	ロールプレイ①	14	頭蓋骨で構成される眼窩7つの骨を学ぶ					
5	ロールプレイ②	15	網膜10層の構造と働きを学ぶ					
6	ロールプレイ③	16	視覚器の発生過程と視覚器発生期限を学ぶ					
7	強膜、角膜の構造と働きを学ぶ	17	視覚に完成する脳神経を学ぶ					
8	隅角、房水の流れを学ぶ	18	単位認定試験					
9	水晶体、硝子体の構造と働きを学ぶ							
10	ぶどう膜の働きを学ぶ①							
評 価								
<p>小テスト（各单元ごとの確認試験） 出席率、授業態度、単位認定試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし単位を認める。再試験、追試験を認めることがある。</p>								
教 材								
<p>視能学（文光堂）、現代の眼科学（金原）、イラスト眼科（文光堂）、配布資料ほか</p>								
			担当講師	松浦理恵				

科目	視覚機能学 I			必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目										
目 標	ヒトを始めとして動物の多くは2つの眼を持つ。2つの眼を持つ最大の利点は立体感と距離感を掴めることである。これを両眼視機能と呼ぶ。 この授業では両眼視機能について、外眼筋、眼球構造を中心に学ぶ。									
内 容										
1	授業ガイダンス	11	網膜対応検査							
2	視覚機能の基礎	12	網膜対応の異常							
3	外眼筋の構造	13	眼球運動神経							
4	外眼筋の作用	14	反対回旋、VOR							
5	眼球運動の仕組み	15	立体視の仕組み							
6	両眼視機能について	16	立体視検査							
7	両眼視機能正立の条件	17	まとめ							
8	ホロプター、パナムの融像圏	18	定期試験							
9	両眼視機能の異常									
10	網膜対応									
評 価										
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。										
教 材										
視能学(文光堂)、現代の眼科学(金原)、イラスト眼科(文光堂)、他										
					担当講師		大原秀徳			

科目	視覚機能検査機器学 I	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	臨床現場で視訓練士としての勤務経験を生かし、機器学では機器の取り扱いや検査手順、結果の解釈は勿論の事、患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指し学ぶ。器官の構造を把握した上で検査の特徴、目的を理解し、教科書通りのマニュアルのみでなく、自身の現場経験を生かして実際の臨床で役に立つ知識と技術を得ることを目標とする。							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	細隙灯顕微鏡検査					
2	眼瞼の構造	12	細隙灯顕微鏡検査実技					
3	外眼部検査	13	画像診断					
4	外眼部検査実技	14	眼圧の仕組み					
5	涙液の仕組み	15	眼圧検査					
6	涙液検査	16	隅角検査					
7	涙液検査実技	17	まとめ					
8	角膜形状解析検査	18	定期試験					
9	角膜形状解析検査実技							
10	角膜内皮細胞検査							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、現代の眼科学(金原)、他								
			担当講師	大瀧友矩				

科目	視覚機能検査機器学Ⅱ	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
----	------------	----	----------	---	-----------	----	---------------------	-------

★実務経験のある教員等による授業科目

目 標	<p>機器学では機器の取り扱いや検査手順、結果の解釈は勿論の事、患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指し学ぶ。 器官の構造を把握した上で検査の特徴、目的を理解し、教科書通りのマニュアルのみでなく、実際の臨床で役に立つ知識と技術を得ることを目標とする。</p>
--------	---

内 容	
-----	--

1	授業ガイダンス	11	クロスシリンダー測定
2	瞳孔間距離測定	12	クロスシリンダー測定
3	裸眼視力測定	13	視力測定
4	裸眼視力測定	14	視力測定
5	裸眼視力測定	15	視力測定
6	放射線乱視表測定	16	視力測定
7	放射線乱視表測定	17	まとめ
8	放射線乱視表測定	18	定期試験
9	クロスシリンダー測定		
10	クロスシリンダー測定		

評 価	
-----	--

出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。

教 材	
-----	--

視能学(文光堂)、現代の眼科学(金原)、配布資料等

担当講師	大瀧友矩・染谷朋美
------	-----------

科目	保健医療福祉学 I	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	時間数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目標	<p>総合病院勤務経験をもとに、実際の医療職の立場から視能訓練士として必要な教養としての医療倫理を伝えたい。 眼科業務に関係のある関係法規から診療録の取り扱い、ホスピタリティーを含め、医療人として必要な知識の基礎を学ぶ。 臨床現場においては様々な患者が来院することから、視能訓練士には高度なコミュニケーション能力が必要となるため、併せて学習する。</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	医療従事者の守秘義務					
2	医の倫理	12	保健医療制度					
3	ヒポクラテス、ナイチンゲール	13	関係法規					
4	視能訓練士の倫理	14	薬機法、母子保健法					
5	医療面接	15	3歳児検診					
6	インフォームドコンセント	16	学校安全保健法					
7	コンプライアンスとアドヒアランス	17	まとめ					
8	診療録の仕組み	18	定期試験					
9	診療録と検査データ							
10	個人情報保護法							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、配布資料								
			担当講師	大原秀徳				

科目	リハビリテーション医学	必修	履修学年	1	授業の方法	講義	時間数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目標	<p>総合病院勤務で学んだ他科との連携など、実践的なチーム医療についての経験を生かし授業を展開していく。</p> <p>リハビリテーションの概念とリハビリによるQOLの向上、障害の定義など総合的に学習する。視能訓練士は一般的な四肢リハビリ現場に立ち会うことは少ないが、ロービジョンにおいてはチーム医療の要となるため、基本的な知識が必要とされる。後半は医療系の学生にとって必須の救命救急について学び、自らがその現場に居合わせた際の対応について学ぶ。</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	障害の原因分類					
2	リハビリテーション	12	視覚障害					
3	ハビリテーション	13	視能心理学と発達心理					
4	QOL、QOV、QOVL	14	心肺蘇生法1					
5	障害の定義	15	心肺蘇生法2					
6	健康の定義	16	心肺蘇生法3					
7	障害の分類	17	まとめ					
8	日常生活の不自由度	18	定期試験					
9	障害者に関わる法律							
10	障害者手帳の種類							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、現代の眼科学(金原)、イラスト眼科(文光堂)、他								
			担当講師	大原秀徳				

科目	視能矯正学実習 I	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	<p>視能訓練士としての現場経験を元に患者様への接遇や検査時の声掛けを意識した実習を行う。 検査学実習と同様に検査手順、結果の解釈を理解したうえで実習に臨む。 講義で身につけた知識を臨床で活かすべく、基本を大切にしつつ、自身の現場経験をもとに様々な 症例に対応できるよう応用力も磨いていくことを目標とする</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	クロスシリンダー4					
2	瞳孔間距離測定	12	視力総合					
3	裸眼視力測定	13	視力総合					
4	球面レンズ測定	14	視力総合					
5	球面レンズ測定2	15	視力総合					
6	放射線乱視表測定	16	視力総合					
7	放射線乱視表測定2	17	まとめ					
8	クロスシリンダー測定	18	定期試験					
9	クロスシリンダー測定2							
10	クロスシリンダー測定3							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、配布資料等								
			担当講師	大瀧友矩・染谷朋美				

科目	視能検査学Ⅰ	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	<p>総合病院での現場勤務および教育現場で培った知識をもとに難解と思われる視覚機能の基礎知識を分かりやすく展開する。 この授業では視能訓練士が眼科検査を行うにあたって必要な視力や視野や色覚の機能的な意味と解剖学的な理解を学ぶ。 視覚機能はいわば『見る』ことに直結する機能であり、最も興味を持ちやすい分野である。</p>							
内 容								
1	眼科生理学の基礎	11	色覚2					
2	感覚器1	12	光覚1					
3	感覚器2	13	光覚2					
4	視覚機能概論1	14	視野1					
5	視覚機能概論2	15	視野2					
6	視覚路1	16	視野3					
7	視覚路2	17	まとめ					
8	視力1	18	定期試験					
9	視力2							
10	色覚1							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、現代の眼科学(金原)、他								
			担当講師	大原秀徳				

科目	視能検査学実習 I			必修	履修 学年	1	授業の 方法	実習	時間 数 (単位)	36(1)	
★実務経験のある教員等による授業科目											
目 標	<p>ヒトを始めとして動物の多くは2つの眼を持つ。2つの眼を持つ最大の利点は立体感と距離感を掴めることである。これを両眼視機能と呼ぶ。 この授業では両眼視機能について、外眼筋、眼球構造を中心に学ぶ。</p>										
内 容											
1	授業ガイダンス		11	クロスシリンダー4							
2	瞳孔間距離測定		12	視力総合							
3	裸眼視力測定		13	視力総合							
4	球面レンズ測定		14	視力総合							
5	球面レンズ測定2		15	視力総合							
6	放射線乱視表測定		16	視力総合							
7	放射線乱視表測定2		17	まとめ							
8	クロスシリンダー測定		18	定期試験							
9	クロスシリンダー測定2										
10	クロスシリンダー測定3										
評 価											
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。											
教 材											
視能学(文光堂)、配布資料等											
				担当講師	大瀧友矩・染谷朋美						

科目	視能障害学 I	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	<p>器官の構造を把握した上で障害について学び理解を深める。症例毎に実例を紹介し学生生活では目にする事のない疾患についても写真、動画等で説明し理解を深めてもらうことを目標とする。</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	水晶体の構造					
2	眼瞼疾患	12	水晶体疾患					
3	眼瞼疾患2	13	網膜の構造					
4	涙液の仕組み	14	網膜疾患					
5	涙液疾患	15	外傷性疾患					
6	角膜の構造	16	外傷性疾患					
7	角膜疾患	17	まとめ					
8	結膜の構造	18	定期試験					
9	結膜疾患							
10	強膜疾患							
評 価								
<p>出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。</p>								
教 材								
視能学(文光堂)、配布資料等								
			担当講師	大瀧友矩				

科目	視能訓練学 I	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	視能訓練士の原点であり根幹をなす領域「視能訓練学」は、理論に基づく視能訓練を実施するために必要な眼科領域の全てを必要とする学問である。そのため、この授業では、Orthopticsの歴史、定義、視能訓練士の役割、眼科疾患、視覚発達を学んでいく。							
内 容								
1	視能訓練学とは	11	ピアジェとエリクソンの発達段階理論を学ぶ					
2	視能訓練士の業務	12	人の発達順序					
3	視能矯正・視能訓練の定義	13	視能訓練士国家試験過去問題演習					
4	ロールプレイ①	14	発達障害の特徴と支援を考える					
5	ロールプレイ②	15	課題個人発表①「テーマ：わたしの発達」					
6	ロールプレイ③	16	課題個人発表②「テーマ：わたしの発達」					
7	ロールプレイ④	17	課題個人発表③「テーマ：わたしの発達」					
8	涙液疾患	18	単位認定試験					
9	結膜疾患							
10	角膜疾患							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学（文光堂）、現代の眼科学（金原）、イラスト眼科（文光堂）、配布資料ほか								
			担当講師	松浦理恵				

科目	視能訓練学実習 I	必修	履修学年	1	授業の方法	実習	時間数 (単位)	36(1)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目標	<p>現場での視能訓練士としての検査技術を元に眼科検査の入り口である視力検査の基礎を習得するため、正確な知識と技術を学べるよう臨床現場を想定し実習授業を行う。 また、高齢化社会をむかえた現在、眼科に来院する患者層は高齢者が多い。乳幼児から高齢者、各年齢層への対応力（声がけ・補助）もこの授業の中で習得できるよう眼科に必要な接遇、マナーを、実践形式で学ぶ。</p>							
内 容								
1	眼科に必要な接遇を考える	11	乱視検査（クロスシリンダー）					
2	実習の心構えと視力検査の目的	12	乱視検査（クロスシリンダー）					
3	カルテの記入	13	安全な誘導と医療面接①					
4	瞳孔間距離の測定	14	安全な誘導と医療面接②					
5	裸眼視力測定	15	医療面接から自覚的屈折検査（総合1）					
6	球面レンズを用いて最高視力を求める	16	医療面接から自覚的屈折検査（総合2）					
7	球面レンズを用いて最高視力を求める	17	医療面接から自覚的屈折検査（総合3）					
8	乱視検査（放射線乱視表）	18	単位認定試験					
9	乱視検査（放射線乱視表）							
10	乱視検査（クロスシリンダー）							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学（文光堂）、現代の眼科学（金原）、イラスト眼科（文光堂）、配布資料ほか								
			担当講師	松浦理恵				